



令和4年度第2回 刈谷市国際化・多文化共生推進委員会 議事録

■ 日 時 : 令和5年3月14日(火) 15:00~16:30

■ 場 所 : 刈谷市役所5階502会議室

■ 出席者

所 属	氏 名
愛知淑徳大学 名誉教授	榎 田 勝 利
国立大学法人愛知教育大学 国際企画課	高 木 遠 慧
刈谷市教育委員会 学校教育課	野々目 将之(代理)
愛知県国際交流協会 交流共生課	林 一 也
刈谷市国際交流協会	西 村 日出幸
一ツ木自治会	及 川 啓 太
株式会社デンソー 総務部刈谷総務人事室	渡 合 史 善
株式会社ベルテック	小 池 ソニア
認定特定非営利活動法人 アジア車いす交流センター	木 村 隆 彦
S B K	川 口 ビバリ
市民委員	ファミ ティ ホン トウイ
刈谷市 市民活動部 部長	近 藤 和 弘

■ 欠席者

刈谷市教育委員会 学校教育課	屋 敷 大 喜
-------------------	---------

■事務局

市民活動部 市民協働課長	渡 部 貴美子
市民活動部 市民協働課長補佐兼協働推進係長	小 原 崇 照
市民活動部 市民協働課 協働推進係 主査	眞 野 浩 志
市民活動部 市民協働課 協働推進係 主事	木 下 和 希
NPO 法人 NIED・国際理解教育センター 代表理事	伊 沢 令 子
NPO 法人 NIED・国際理解教育センター 事務局長	川 合 眞 二

■ 配付資料

次第、名簿

資料 1 国際化・多文化共生のまちづくりのためのアンケート調査 報告書（素案）

別表「市各課等あて外国人との関わり調査結果一覧」

資料 2 刈谷市国際化・多文化共生推進計画第 3 期重点協働プロジェクトの進捗状況について
別添 刈谷市の『国際化・多文化共生』かわら版 KARIYA GLOBAL LETTER Vol.9

資料 3 刈谷市日本語支援団体連絡協議会について

■ 議事録

1. 開会

◇出欠席者の確認、配付資料の確認

◇委員長あいさつ：本日の資料は、膨大なアンケート結果だが、そこから様々なことが分かる。
気づいた点はどんどん発言してほしい。それが計画の次のステップに行く際に貴重な意見となる。

2. 議題

(1) 第 2 次刈谷市国際化・多文化共生推進計画にかかるアンケート調査について

ア 外国人市民アンケート、日本人市民アンケートについて

◇事務局が、資料 1 をもとに、第 2 次刈谷市国際化・多文化共生にかかるアンケート調査結果のうち、調査の概要と外国人アンケート結果、日本人アンケート結果について説明した。

◇上記説明事項について、以下のとおり質疑応答、意見交換を行った。

委員長：事務局の説明に関して、いろいろ考えさせられるような結果もあるが、ご質問やご意見、または感想はあるか。

委員：P. 45 日本人市民アンケート「外国人市民からの相談経験」の設問で、「相談を受けたことがない」という回答が 90%以上という結果が意外だった。どこに相談できないハードルがあるのかなと考えながら聞いていた。我々も外国人と一緒に働いているので、質問や相談ができるような環境を作っていく必要があると感じた。

委員：P. 13 外国人市民アンケート「行政の制度やサービスの認知度」の設問では、ある程度日本語ができる外国人が答えていると思った。私の勤務する会社の外国人については、今回のアンケートの回答結果よりも、知らない人の割合が多いと思う。しかしながら、ブラジル人は長期の滞在者が増えているので、日本での生活経験を積む中で生活に支障はない人が多いと思う。

委員：ベトナム人はおそらく行政の制度やサービスについて、知らない情報が多い。相談できないでいる人も多い。もっと相談できるようにしてほしい。

委員：P. 45 日本人市民アンケート「外国人市民からの相談経験」の設問について、フィリピン人は、日本人に聞くような相談事があまりないのかなと思う。みんなインターネットの検索サイトなどで調べることが多い。平日の日中や夜とかに知人などに相談したり電話したりしたら、迷惑かけると思っているので、自分でなんとかしようと思っ
ている。知人に相談するとか、市役所に行って相談するなどは、しない人が多いと思う。フィリピン人同士は、SNSなどでつながって、情報共有している。

委員長：外国人市民アンケートでは、同国人同士の団体に参加したいという意見もあるから、うまくつながっていけるとよい。

委員：P. 2 の回収率について、外国人市民アンケートの回収率が 22.5%と低いことが気になる。次回以降アンケートをする場合は、もっと高められるよう工夫することが大事である。

P. 42 日本人市民アンケートの回答者の割合で 20 歳代以下の人が少ないのはなぜか。英語を勉強する機会も増え、本来ならば若い方は外国人に対して興味を持つと予想されるが、なぜこのような結果となっているかわからない。日本人と外国人はそれぞれ交流したい気持ちはあるが、どうやって交流したらいいのかわからないのではないかと。交流するために仲立ちする人が必要なのではと思った。言葉の壁が問題ではなく、交流の機会や方法への工夫が必要である。刈谷市国際交流協会のボランティアの人が交流の機会を作ってくれているが、ボランティアは毎回同じメンバーであり、もっと多様な人と交流できるとよい。ワールド・スマイル・ガーデン（以下、ワールドデン）は、中学生の参加が盛んで、希望者が多く抽選で参加者を決めているらしい。こうやって交流のチャンスを作る団体が増えるといい。アンケート結果からはみんな交流の場へ参加したいと思っ
ているようなので、機会づくりが必要である。

委員長：一般的にアンケートでは「交流したい」と答えるが、実際には交流していないことはよくある。大学の学生においても先生がアレンジしてくれたら参加する、チャンスを与えられれば参加する、というように他力本願の傾向がある。

委員: 交流については、ここまでの意見と同様の感想を持っている。P. 49 日本人市民アンケート「外国人住民が増えることへの不安」の設問における回答結果で、外国人の方が増えることに対する「不安」を感じている 20 歳代以下の若者が多いことに驚きを感じる。交流する機会があっても、外国人に深い相談事などをされた際の不安が若い世代にはあるのかもしれない。若い世代の母数が少ないので、一概には言えないと思う。「支援」と「共生」という視点から見ると、ワールドデンに参加している外国人と日本人は「共生」という視点で活動していると思う。活動の中で何か「支援」できることがあるかと言われると難しい。「支援」と「共生」は、分けて活動していった方が参加のハードルは下がると思う。交流や楽しいことだけにフォーカスする場もあってよいと思う。「支援」については行政につなげるような相談の中心になれるような人がいるとよいのではないか。

委員: P. 33 日本人市民アンケート「コミュニティへの役立ち意向」の設問において、刈谷のために役に立ちたい外国人が多いことに驚きと感動を感じる。当団体にもボランティアが 30 名ほどいる。障害のある方から、自分たちはいつも支援を受ける側だが、自分たちも支援をしたい、という相談を受けることがある。たくさんの方が刈谷に貢献したいと思っているのであれば、交流だけではなく、一步踏み込む活動を作れるといいなと思う。

委員長: 「つなぐ役割」が大切である。「誰に相談したらいいのか?」「何をしたらいいのか?」という疑問に答えられる人が、相談に乗って適切などころにつないであげる必要がある。国際分野では、国際交流協会や国際交流センターなど様々なところがそういった役割を担っている。地域で、その「つなぐこと」がどれだけ機能しているのかということを経後の課題として考えていきたい。

イ 刈谷市役所職員・各部署アンケートについて

◇事務局が、資料 1 をもとに、第 2 次刈谷市国際化・多文化共生にかかるアンケート調査結果のうち、市職員・各部署アンケート結果について、説明した。

◇上記説明事項について、以下のとおり質疑応答、意見交換を行った。

委員長: 事務局の説明に関して、ご質問やご意見、または感想はあるか。

委員: やさしい日本語を使う（専門用語を使わない）ことは、なかなか市職員はできていないことが多いと思う。やさしい日本語を使う、専門用語をかみ砕いて説明する、ということが周知徹底されれば、かなりの部分の課題はクリアされるのではないか。この考え方を市職員が認識することが必要である。

委員: 私は 2 年前までは中学校の現場にいた。どの学校にも外国にルーツのある児童がいる。意思疎通にも困るレベルの日本語理解力の児童もいる。しかし十分に支援をしてあげ

られない現状がある。プレスクールはあるが、長い期間を通えるわけではなく、中学校に入る際に日本語ができるようになっていないというのが現状である。どうやって支援してあげられるのか、どうすればこの児童たちが幸せになるのかをよく考える。その一つの方法として語学指導員の人数が増えること、プレスクールがより充実することがあると思う。3言語（フィリピン、ポルトガル、中国）のみの語学指導員しかおらず、ベトナムやタイの語学指導員はいない。多言語の語学指導員を配置するのは難しい。学校からの書類も多言語化が必要だが、とても間に合わない現状がある。日本語で発信して、自動翻訳機で翻訳してもらっているが、翻訳機の翻訳はニュアンスが違ってしまい、当該国の人にはわからないと言われることも多い。

委員：愛知県全体でみると語学指導員の多言語化の観点では、ベトナム、ネパールの人の希望・問合せが多い。適任者を見つけようとするが、ベトナム語通訳の確保は、ハードルが高くなかなか見つからない。ベトナム人の配偶者の日本人が何人か活躍しているようだ。読むことよりも書くことにハードルがあるケースが多い。ベトナム語の語学ボランティアも非常に少なく、ネパール語もベトナム語もニーズは増えているのに、なかなか適任者が見つからないという現状である。こういった状況を打破しようと、日本語教室を開催するという試みもあるが、なかなかニーズに追いつかない。まずはやさしい日本語を使えるようにすることが優先かもしれない。

委員：ベトナム人のうち家族滞在ビザで夫について日本に来た妻は日本語が苦手なことが多い。ベトナム語通訳は不足していることについて、ボランティアを育てる際に、通訳のマナーとか専門用語などを教えてくれる教室があれば、きっと多くの人が協力してくれるかもしれないと思う。自分もそういうボランティア教室があれば参加したい。市役所くらし安心課の外国人生活相談サービスに友人を連れていったことがある。しかし、外国人相談員にベトナム語ができる人はいない。

委員長：日本人のボランティア研修だけではなく、外国人のボランティア研修や語学指導員の研修が必要になってくるのではないか。参加したいのに機会がない人は多い。

委員：通訳をするなら、勉強しないとできない。研修しないとボランティアはできない。日本語ができるだけでは不安である。

委員長：ベトナム人の留学生は多い。その人達との関わりも推進できるといい。企業の海外駐在されたご家族に協力してもらおうことも考えられる。

委員：企業の中で、海外駐在の家族帯同のケースもあるので、今後支援できるかもしれない。

(2) 刈谷市国際化・多文化共生推進計画 第3期重点協働プロジェクトの進捗状況について

◇事務局が、第3期重点協働プロジェクトの進捗状況について資料2をもとに説明を行った

◇上記説明事項について、以下のとおり質疑応答、意見交換を行った。

委員：輪〜るど・ビレッジ小垣江の多文化イベントに参加したが、とても楽しかった。こういう機会がもっとあると交流がたくさんできる。交流だけではなく、他国の文化・習慣の勉強にもなった。

委員：多文化コミュニティガーデンについて、ワールドデンは輪〜るど・ビレッジ小垣江より先輩だが、グローバルレターの楽しそうな写真を拝見し、率直な楽しかったという感想を聞くと、追い抜かれるのではないかと思うぐらいである。ワールドデンは、コロナがあり、やりたいようなイベントがなかなかできなかったが、最近になって、母国に帰国される外国人参加者のお別れ会をしたら、改めてワールドデンへの気持ちを聞くことができ、いつもの畑作業だけではわからないことをわかってよかった。畑作業だけではなく、机に座って話を聞くなど、話をする機会を作っていきたいと思った。ワールドデン（一ツ木）と輪〜るど・ビレッジ小垣江の交流も今後はしていけたらと思った。

委員長：輪〜るど・ビレッジ小垣江の今後の課題は、活動する畑をどう確保していくかである。

委員：国際化・多文化共生は、個々の草の根の活動を通じて広がっていくことが大切だと感じている。作業などを通じて国際理解が深まっていくと感じる。行政主導で行ってもなかなか実にならないことも多い。みなさんのコミュニティの中の交流、コミュニティ同士の交流が大切と思った。来年度以降もみなさんに協力してもらいながら、活動を広めていきたい。楽しいことが一番である。また楽しさを実感してもらうためには、仕掛けが必要であると感じた。

(3) 刈谷市日本語支援団体連絡協議会について

◇事務局が、刈谷市日本語支援団体連絡協議会について、資料3をもとに説明を行った

◇上記説明事項について、質疑等はなかった。

3. その他について

◇最後に、委員一人ずつ感想などを発言した。

委員：この場でみなさんと情報共有させてもらったりとか、つながって話すことができる関係ができたりしたことで、ワールドデンを運営するためのヒントをたくさんもらっていると感じる。近隣の教育施設へのアプローチが難しい中、国際交流に関心のある先生が訪問してくれた時にその方と話したことがきっかけでヒントを得て、中学生にボランティアに参加してもらいアイデアを思いつくことができた。

委員：小垣江の多文化イベントが楽しかったとのコメントがあったが、近隣の高校の野球部から外国人と交流したいというオファーがあって、国際交流協会の日本語教室の学習

者が一緒にソフトボールをやって交流したことがある。その際も非常に盛り上がった。

委員：詳細なアンケートを取られており、とても参考になるものであった。新型コロナの感染拡大以降、保健・医療・福祉に関する情報は外国人も必要としていることが多い。新型コロナに関する国の情報は、日本人もそうかもしれないが、外国人はより理解するのが難しかったのではないかと思う。愛知県国際交流協会としては、刈谷市を含めた市の国際交流協会とも相談しながら施策を進めていくのが大事と考える。今回のアンケート資料は愛知県国際交流協会としても参考にしたい。

委員：今回の会議中に外国にルーツのある子ども達の顔が浮かんだ。どんなにITが進んでも、人と人が顔を合わせて交流することが大事だと思う。

委員：短期間で資料をまとめてくれて感謝する。他都市に長く住んでいた時には外国人として孤独を感じたこともあったが、刈谷市は外国人のことをこんなに考えてくれているのかと感激している。日本人とどうやって仲良くしていくかをこれまで考えてきたが、日本にいる他国の人々といかにつながっていくかも大事だと感じるようになった。

委員：多くの外国人は、読むことが苦手でも、ひらがな・カタカナなど簡単な文章なら読めるという結果を知り、市役所、学校、病院、郵便局、銀行などの書類には、ひらがなが必要と感じた。当社としても参考にしていきたい。

委員：違う国の人に対して興味を持ってもらうためには、その国の魅力がわかることが大事である。市役所で一般の人が目にすることができるように、1ヶ月に1回など、国を決めて、その国のお国自慢などを展示していくなどしてみてもどうか。

委員：当団体は、海外に拠点を持っている。タイ及びインドネシアと日本の若い人同士の交流に力を入れている。そういった交流活動に参加した人が、その中で学んだことを恩返ししたいということで、刈谷にある高校で、交流活動で学んだ内容を出前授業してくれた。若い人は熱意があると感じた。当団体は、国際協力、国際交流の活動をしているが、海外に拠点があり、刈谷市民との直接の接点はなかった。しかし今後、外国人ボランティアの受け皿となるなど、地元の役に立ちたいなと感じた。

委員：アンケート結果を見て、刈谷市が外国人のために考えてくれていると感じた。とても勉強になる。交流できるように考えてくれていて、感謝する。

委員：今回のアンケートはわかりやすく、詳しいものでありがたい。刈谷市は、外国人のことを考えてくれていて、ありがたい。

委員：NHKの大河ドラマ「どうする家康」で刈谷市も舞台になっており、歴史のあるまちである。外国の方にも、刈谷が昔どういうところだったのかを見て、学んでもらい、興味を持ってもらえればよいかなと思う。

委員長：色々な学びがあったという感想が多かった。多文化共生社会づくりとは「足のサイズにあった靴を用意すること」と形容され、多様な国籍の方々にあった施策を用意することである。出会いの場作り、交流の場作り、学びの場作りが重要である。教員を対象とした多文化共生の研修をやったらどうか。市職員を対象とした通訳翻訳の研修な

どの学びの場作りをしてはどうか。共に活動できるような場作り、出会いの場作り、実際に一緒に活動する場作りをすることで、他人事ではなく自分事にしていく。思いを持った人が思いを形にしていく場作りをしていけば、時間はかかるが、偏見は薄れていく。若い人、子ども達には、私たち大人が、偏見を生み出さない環境を作ることが大事である。来年度が現計画の最後の年となるので、みなさんの力を貸してほしい。

◇事務局から連絡事項を伝え、委員長が閉会した。